

28P-am122

生薬エキスによる NC/NgaTndCrlj マウスのアトピー様皮膚症状の改善効果

○日置 智津子¹, 小野坂 敏見², 荒井 勝彦¹, 新井 信¹(¹東海大医, ²神戸学院大
栄養)

【背景と目的】4種の生薬(黄連・黄芩・黄柏・艾葉)の抽出エキスを用いた軟膏の効果について、既にアトピー性皮膚炎患者において、痒みや痛み、生活の質の改善度(本人と家族による評価)、紅斑、落屑、浮腫(施療者による他覚的所見)について2年間にわたり観察し、いずれの項目においても有効であることを報告した。本報では、アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いて、これらの生薬抽出エキスの効果について検討をした。【方法】14週齢の NC/Nga TndCrlj マウス、総計20匹を1群10匹として2群に分けた。各群に、上記生薬4種(各100g)をエーテル5lで抽出して得たエキスを、オリーブ油、馬油とサラシミツロウに混合して調製した軟膏(黄膏)と、後者3種の油脂のみを混合した軟膏(白膏)を、1日1回、1匹に100mgを14日間、均一に耳介と背部に塗布した。投与開始時、7日と14日目に摂餌量、体重を測定した。開始時と14日目に採血を行い、血清中のIgE値をELISA法により測定した。また耳介と背部における発赤と出血、痂皮形成と乾燥、浮腫、擦傷の状態の4項目について開始時、3日、7日、10日、14日目の5回、実験者以外の者により判定をさせた。全項目の総合点により皮膚炎の重症度を決定し、加えて皮膚組織学的な検討を行った。【結果と考察】摂餌量と体重の推移は黄膏群と白膏群において有意差はなかった。IgEの値は開始時において両群に差はなく、14日目において基剤群(白膏) 1963 ± 274 ng/ml、生薬軟膏群(黄膏) 1163 ± 190 ng/ml と差が認められた ($p < 0.05$)。黄膏は耳介部に塗布して7日目、背部には14日目に白膏よりも改善効果が見られ ($p < 0.05$)、HE染色による皮膚表皮の肥厚、浮腫の状態も、黄膏群に、大差はないが改善効果が認められ、組織学的にも生薬エキスの有効性があると考えられた。